

平成28年度 政務活動報告書

会派又は議員名 鈴木 岩夫

政務活動期間	平成28年11月9日、11月11日(2日間)
政務活動先	下川町、栗山町
政務活動参加者	鈴木岩夫(1名)
政務活動項目	森を財産とする「循環型森林経営」の実際について 「環境未来都市」下川町の森とともに暮らす仕組みについて 鳥獣被害対策事業について
政務活動項目に係る 目的・結果等の概要・所見	別紙のとおり

2016年研修視察（政務活動研修）報告

当別町議会議員 鈴木 岩夫

1 下川町

日時 2016年11月9日（水）13:00～15:15

場所 下川町役場

役場周辺熱供給システム見学、木質原料製造施設見学、一の橋地区バイオビレッジ見学

テーマ ①森を財産として、森とともに生きる、「循環型森林経営」の実際について

②国から「環境未来都市」に認定されている人口3,500人の下川町の森とともに暮らす仕組みとは、いったいどういうものか。

研修は、町と観光協会が受け入れ

下川町役場「環境未来都市推進課」佐藤大樹主事とNPO法人「しもかわ観光協会」事務局松田千穂さんに案内・説明していただきました。

この日は、悪天候のため予定を変更して下川町役場よりハイヤーで「一の橋地区バイオビレッジ」見学を行いました。

はじめに、一の橋地区バイオビレッジ熱供給システムの木質原料（チップ）がボイラーの中で燃え、複数の施設を暖める仕組みを見学しました。

つぎに、長屋風に外廊下で隣家や郵便局、食堂（駅カフェイチノハシ）と繋がり、暖房・給湯は木質バイオマスの熱を利用、雪かきせずに通りの生活ができる仕組みの集住化住宅を見学しました。

その後、「一の橋地区バイオビレッジ」より役場に戻り説明を聞きました。

地元の資源を生かす取り組みで「雇用の創出」

下川町の人口減少は、当別町のそれとは比べ物にならないくらい激しく、かつて15,000人いた人口は、現在3,500人と激減しています。

農林業の衰退とともに、官公庁の出先機関の撤退、鉄道の廃止は、追い打ちをかけました。雇用のない町からは、どんどん人口の流出が続きました。

しかし、近年は、人口の流出に歯止めがかかり、増加しているというのです。そのきっかけは、やはり「雇用の創出」、地元の資源を生かす取り組みでした。林業の再生で町の再生、復活でした。

切り出した木のすべてを利用しきる取り組みが、新しい雇用を生み出す。1本の木から建築材、燃料、加工品、アロマなど多種多様なものが生み出されていました。それにかかわる様々な職種の方々が集まってきました。

域内循環のまちづくり

様々な業種の方が「山」に関わる。エネルギーを「山」から生み出す。公共施設の暖房費の節約から福祉施策の拡充へ。公共施設から一般家庭へ拡大。空家・点在していて不便な生活環境を集住化する取り組みへ。そして、これまで、木から熱を産み出していた取組から電気を産み出す取り組みへと発展させようとしている。

「循環型森林経営」と「環境未来都市」、これからの当別町を考えたとき、学ぶべき点は多いにあるように思えます。地元の資源を生かす取り組みで「雇用の創出」というのが、大切な着眼点だと思います。とても参考になった研修でした。

2 栗山町

日 時 2016年11月11日(金) 13:30~15:00

場 所 栗山町役場

テーマ 鳥獣被害対策事業について

① えぞ鹿による被害と対策等(金網設置の具体と補助事業)

② アライグマによる被害と対策等(電ぼく設置と補助事業)

町あげて知恵出し合って農地囲む100kmのフェンス!

栗山町役場「産業振興課」森英幸課長、農林業振興グループ山口拓人主事、北野泰教主査さんに説明していただきました。

年ごとに増え続けるエゾシカによる農業被害。ついに1億円を超える事態に、農業者だけでなく、町あげて危機感を募らせ対策を練ることに。国・道・町・農協・近隣町村の協力も得て、農地をすっぽり囲む100kmに及ぶフェンスを張り巡らすことを選択。精力的に取り組みました。

困難を乗り越えて、1億円の被害が1千万円以下に!

何せ農地をすっぽり囲む100kmにも及ぶ工事ですから、順風満帆に工事が進んだわけではありません。農地に隣接する山林所有者との折衝・了解を得る作業が一番苦労したそうです。それから、「自分たちの農地は自分たちで守ろう」、というのはわかるがいざ作業となると、そのモチベーションを継続させる工夫が大変です。様々な関係機関との相談・連携で1メートル500円の役務費をねん出したのです。

平成23年より3年に及ぶ事業で農地をすっぽり囲む100kmにも及ぶ工事が完成します。工事着工前年1億円あった被害額は、工事終了年より激減し、平成27年度は700万円までに減少します。

そして、補修のための事業予算を確保し、今も継続して取り組まれているということでした。

爆発的に増えるアライグマや鹿、ともに増える被害額

私は、高岡に移住して10年になります。当初は、アライグマの被害と駆除についてたくさんのお話を聞きました。それでも、私の畑では被害はありませんでした。

それが、3、4年経ってからは、せつかく育てたトウモロコシやスイカが、見事にやられたのです。それも、明日収穫して食べようかなという日に限って被害にあうのです。それからは、害獣よけのネットを張り巡らすことにしました。

その年あたりからでしょうか、鹿を見かけるようになり年々数が増えていき、今では群れになって押し寄せてきているという感じです。被害も増えていき、相談も増えてきています。

北海道も、これまで行っていなかった道南の生息調査結果を発表しました。道東・道北から、道央、道南まで生息域を拡大し、それとともに農業被害は深刻になってきています。対策が求められます。

地域が、町が、近隣市町村が一体となって

私も、議会で取り上げ、町としても、農協と一緒に力を使いたいと表明していますし、一部対策も拡充していています。

しかし、なかなか抜本的な対策とまでには進んでいません。その要因としては、様々上げられます。町も、農協も、やはり地域あげて取り組むことが最善と考えています。しかし、栗山町の経験でも、そこが一番の課題です。100%の助成事業であっても、高齢化や担い手不足が、なかなか課題解決に結びつかないという実態があります。

しかし、鳥獣被害は、増加するのは必至です。